

令和元(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 峰 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和元(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	80人	算数	80人	理科	80人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	74人	算数	74人	理科	74人
------	----	-----	----	-----	----	-----

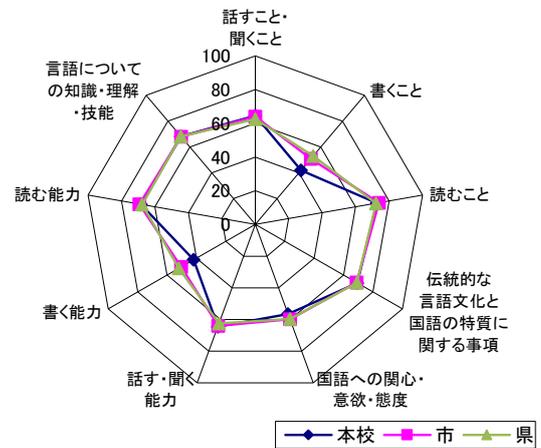
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.5	64.0	62.5
	書くこと	42.0	50.9	53.1
	読むこと	72.7	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.4	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	64.5	64.0	62.5
	書く能力	42.0	50.4	52.0
	読む能力	68.3	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.2	67.9	68.2



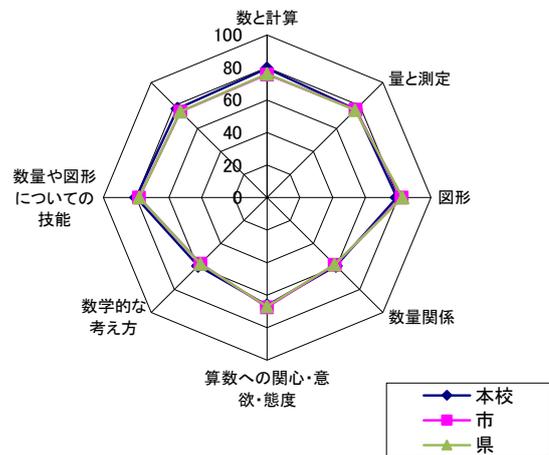
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、市の正答率と同程度、県の正答率を2%上回っている。 ●「話題に沿った意見と理由を考えて話すことができる」の設問では、県の正答率を8%程度下回っている。	・発表や話し合い活動の場における聞き方・話し方の指導や、国語の授業での「話す聞くスキル」の活用を続け、要点を捉えて聞いたり話したりできるようにしていく。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
書くこと	●平均正答率は、市の正答率を9%程度、県の正答率を11%程度下回っている。 ●各設問で、県の正答率を下回っており、正しく原稿用紙を使うことができず、段落分けが苦手な児童が見られた。無回答の児童の割合が31.3%と多かった。	・作文指導において、原稿用紙の正しい使い方や、段落の構成の仕方を丁寧に指導する。また、国語の授業以外にも書く活動を取り入れていく。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
読むこと	○平均正答率は、市及び県の正答率と同程度となった。 ○物語の場面の様子を読み取る問題では県の正答率を上回った。 ●説明文を正しく読み取る問題において、県の正答率を6%下回っている。	・国語の授業において、説明文の段落ごとに筆者が何を伝えたいのかを要約できるように指導する。また、朝の読書の時間を中心に読書活動を推進することで、豊かな文章に触れる機会を増やす。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市及び県の正答率とほぼ同程度であった。 ●漢字の書きの平均正答率は62.7%で、県の正答率を4%程度下回っている。 ●主語と述語を問う問題では、平均正答率は41.3%で、県の正答率を10%程度下回っていて、満足な状況とは言えない。	・漢字ドリルや小テストなどを活用して反復練習を行い、定着を図っていく。漢字の成り立ちや部首に着目し、漢字への理解を深める。 ・言語指導の際には、前学年で学習したことを振り返る場を設け、基礎の定着を図る。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.4	75.8	76.1
	量と測定	76.6	76.5	76.0
	図形	79.2	82.1	82.7
	数量関係	59.5	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	66.3	67.4	67.0
	数学的な考え方	59.5	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	80.0	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	77.3	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

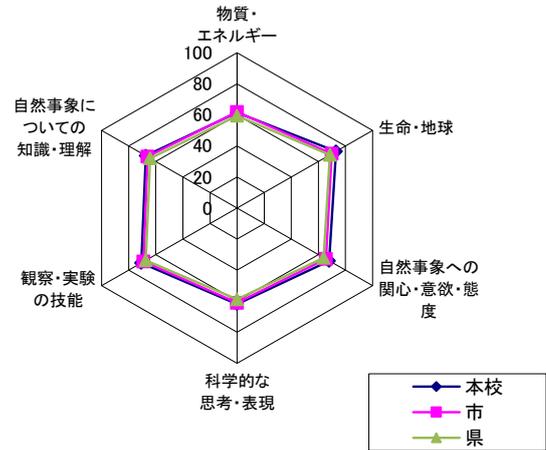
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を3%程度上回っている。</p> <p>○「数の相対的な大きさについて理解している」の設問では、県の正答率を15%と大きく上回っている。</p> <p>○「3けた+4けた(繰り上がり3回)の計算ができる」「整数-小数第1位の計算ができる」の設問では、県の正答率を6%以上、上回っている。</p>	<p>・普段の学校でのテストでも計算ミスが目立つので、計算ドリルやプリントを活用しながら繰り返し問題を解くようにする。</p> <p>・言葉かけやノートを確認し、見直しを行う習慣を身につけさせる。</p> <p>・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率と同程度である。</p> <p>●「地図から読み取った二つの道のりについて長さを比較する」設問では、県の正答率を5%程度下回っている。</p>	<p>・道のりと距離の違いをもう一度確認する。</p> <p>・文章をもとに式を立てられるように図を描いて考えさせる。</p> <p>・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p>
図形	<p>●平均正答率は、市及び県の平均正答率を3%程度下回っている。</p> <p>●「正三角形を作図することができる」の設問では、県の正答率を6%程度下回っている。</p>	<p>・コンパスや分度器を用いた作図の際にずれが生じてしまう児童が見られる。使い方をもう一度確認し、正しい使い方ができるようにしていく。</p> <p>・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を1%程度上回っている。</p> <p>●「棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して、棒グラフをかくことができない理由を説明する」の設問では、県の正答率を6%程度下回っている。</p>	<p>・与えられたグラフ用紙の目盛りをいくつに設定したらいいか考えさせるような問題に慣れるように、宿題や復習プリントを通して繰り返し取り組ませる。</p> <p>・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p>

宇都宮市立峰小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.5	61.9	59.4
	生命・地球	73.0	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	68.0	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	61.9	61.0	58.8
	観察・実験の技能	70.7	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	67.4	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、市の正答率と同程度、県の正答率を2%上回った。</p> <p>○「鏡ではね返した光の進み方を理解する。」「日光を集めた部分の大きさや明るさや温度との関係について理解する。」「実験の結果からわかる風のはたらきについて説明する。」の設問では県の正答率を6%以上、上回っている。</p> <p>●「磁石のどのような性質を調べるための実験か推測する。」の設問では、県の正答率を13%程度下回り、正答率は53.8%であった。</p> <p>●県の正答率を上回ったものの、平均正答率が50%を下回った設問は、「豆電球がつかなかった理由を推測する。」「電気工事をしている人がゴムの手袋や長靴を使用する理由を説明する。」であった。</p>	<p>・推測する設問の正答率が低かったことに対しては、実験の前に予想や計画を立てたり、実験結果を表や自分の言葉でまとめたりすることで、性質を捉えられるようにする。</p> <p>・身の回りの自然現象に対して、まず疑問を持ち、その上で実験・観察を通じて検証していくといった、科学的に探究する学習活動を重視する。</p> <p>・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率は、市の正答率を3%、県の正答率を4%程度上回った。</p> <p>○県の正答率を大きく上回った設問は、「観察カードからアブラナとタンポポの違いを読み取る。」「温度計を正しく読む。」「日なたと日かげの地面の温度の変わり方をもとに、時刻を推測する。」であった。</p> <p>●県の正答率を下回った設問は、「モンシロチョウがたまごから成虫になるまでのおよその期間を理解する。」「トンボの育ち方を理解し、ヤゴを正しく飼う。」であった。</p> <p>●県正答率を上回ったものの、平均正答率が50%を下回った設問は、「ホウセンカの種を正しくまいて世話をする。」「太陽とかげの動きについて理解する。」であった。</p>	<p>・ホウセンカの正しいまき方については、今後植物を育てる際に、種の大きさによって種のまき方が異なることを指導する。</p> <p>・モンシロチョウを実際に飼って観察していくことで、成長の過程や体のつくりを理解させるとともに、他の昆虫についても昆虫図鑑などを活用して理解を深める。</p> <p>・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p>

宇都宮市立峰小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」「教科などの学習は、将来のために大切だと思いますか」の問いに対する肯定的回答割合は、それぞれ97.6%、93.5%である。このことから、学習することへの必要性を感じ、学習への意欲が高い児童が多いと思われる。

○「自分は、家族の大切な一員だと思う」「家でのきまりや約束を守っている。」の問いに対する肯定的回答割合は、それぞれ92.6%、90.1%である。このことから、児童が各家庭で大切にされていることと、家庭での基本的生活習慣が身に付いていることがうかがえる。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」の問いに対する肯定的回答割合は、それぞれ96.3%、92.5%である。このことから、自分の役割や仕事に対して責任感があり、学校生活に充実感を感じている児童が多いと考えられる。児童の頑張りを今後も称賛する機会を設け、意欲を継続させていくようにする。

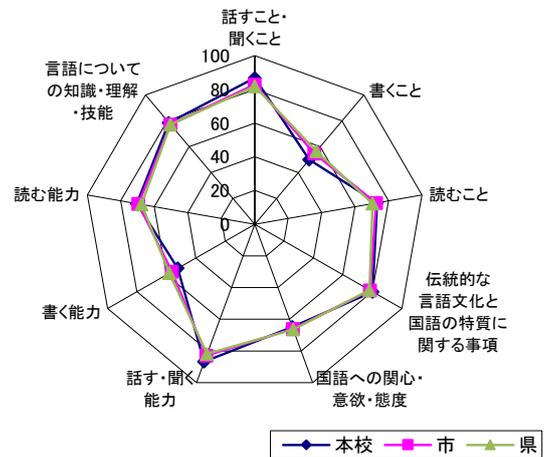
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の問いに対する肯定的回答は51.3%である。「クラスは発言しやすい雰囲気である」の問いでは85.0%肯定的回答が得られたことから、発表後、称賛する場を設けたり、小グループでの話合いから全体での話合いへと段階を踏むことで、自分の考えや発表に自信をもてるよう働きかけていきたい。

●「本やインターネットを利用して、学習の情報を得ている」の問いに対する肯定的回答が42.5%である。学習で利用できる図書室の本や安全なサイトなどの情報提供を行い、自主的な学習習慣を促していきたい。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	86.8	82.9	81.8
	書くこと	50.0	54.8	56.5
	読むこと	73.2	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.2	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	64.9	66.0	66.4
	話す・聞く能力	86.8	82.9	81.8
	書く能力	52.2	56.3	57.9
	読む能力	70.4	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	78.6	77.2	77.1



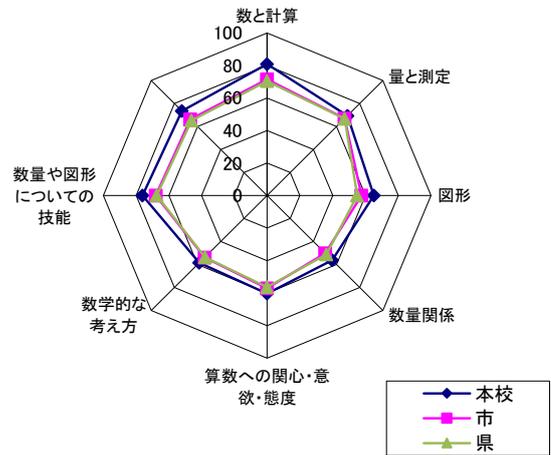
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を3～4%程度上回っており、平均正答率も高く、概ね満足できる状況である。</p> <p>○「話の中心に気を付けて聞くことができる。」の設問では、県の正答率を6%程度上回っている。</p>	<p>○良好的な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もペア・グループ、全体での話し合いの時間を確保する。 ・「話し方」「聞き方」の指導を繰り返し行う。 ・音読音声教材「話す・聞くスキル」を活用して、声を出して表現することの楽しさを味わわせる。 ・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。
書くこと	<p>●平均正答率は、市及び県より5%程度下回っており、満足できる状況とは言えない。</p> <p>○「意見をもとに、ポスターの文を書くことができる。」の設問では、県の正答率よりも9%程度上回っている。</p> <p>●題意に沿った適切な文章を選ぶことは出来るが、記述の設問では県の平均を12～18%も下回っている。無回答者も30%以上で満足な状況とは言えない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された条件や構成に合わせた文章を書く練習をさせる。 ・自分の考えが明確になるように、国語以外の教科でも具体的に文章を書く指導を充実させる。 ・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。
読むこと	<p>○平均正答率は、市及び県よりやや上回っており、平均正答率も概ね満足できる状況である。</p> <p>○場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることができており、概ね満足な状況である。</p> <p>●「段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。」の設問では、県の正答率を6%下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情の変化を読み取れるようにする。そのため、繰り返し文章を読ませたり、考えをメモしたり、叙述に線を引いたりする作業を取り入れる。また、考えを広げたり深めたりするための話し合い活動を充実させる。 ・文章を根拠に自分の考えを説明できるようにする。 ・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○平均正答率は、市及び県よりやや上回っており、平均正答率も高く、概ね満足できる状況である。</p> <p>○漢字の読み、書きについては、市及び県の正答率をやや上回っており、満足な状況である。</p> <p>●文の構成についての理解が不十分なところがあり、正答率が低い設問もあった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に既習の漢字を使って書かせたり、言葉の学習を計画的に進めたりする。 ・教科書に示された使用例以外の熟語にも注目させるとともに辞書を使う習慣をつけさせる。 ・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.9	71.5	70.4
	量と測定	69.4	67.0	66.9
	図形	65.1	57.6	55.0
	数量関係	56.2	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	60.3	57.0	56.3
	数学的な考え方	58.5	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	76.1	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	73.5	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

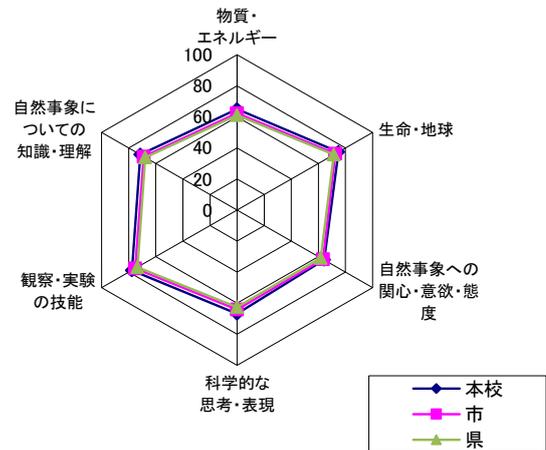
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を10%程度上回っている。</p> <p>○小数や分数の設問では、県の正答率よりも10%以上除法の設問では、20%以上大幅に上回っている。</p> <p>●概数の問題に対する平均正答率が県の正答率に対して7%程度下回っている。</p>	<p>・今後も、基本的な計算の定着に向け、朝の学習で、復習用教材等を活用し、更なる定着を図る。</p> <p>・以上、以下、未満の様々な組み合わせの問題を用いて、理解を深め、繰り返し問題を解くようにする。</p> <p>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を2%程度上回っている。</p> <p>○「身近にあるもののおよその面積を求める設問」の平均正答率は、県の正答率を5%上回っている。</p>	<p>・面積を求めたり、角の大きさを測定したりする活動では、言葉・数・式・図などを用いて理解を深めたり、体験的な活動を行ったりすることで、量感覚を養う。</p> <p>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。</p>
図形	<p>○平均正答率は、市を7%程度、県の正答率を10%程度上回っている。</p> <p>○「四角形の対角線の性質を理解している」の設問では、県の正答率を20%以上、上回っている。</p> <p>●「地図から情報を読み取り、理由を説明する」設問では市及び県を上回っているものの、正答率は20%台と低く、満足できる状況ではない。</p>	<p>・授業の中で自分の考えを理由をつけて説明できるように、ノートに考えを書いたり、小グループで話し合ったりする活動を多く取り入れる。</p> <p>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を5%以上、上回っている。</p> <p>○「計算のきまり、変わり方調べ」の設問では、県の正答率を7%以上、上回っている。</p> <p>●「グラフを基に、理由を説明する」の設問では、県の正答率を下回り、17.8%であった。</p>	<p>・グラフの基本的な読み取り方を指導する。さらに、グラフから読み取ったことを根拠をもって説明できるように、話し合いの場を設定していく。</p> <p>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を図る。</p>

宇都宮市立峰小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.0	62.4	61.1
	生命・地球	74.8	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.2	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	66.8	64.1	62.6
	観察・実験の技能	77.6	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	71.4	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を2～4%程度上回っている。</p> <p>○内容ごとの平均正答率は、「水のすがた」「物の体積と温度」の内容において、市及び県の正答率を上回っている。特に、「水のすがた」の内容の平均正答率は、市及び県よりも10%程度上回っている。</p> <p>●「おもちゃの豆電球が光る仕組みを推測することができる」の設問では、平均正答率が45.2%で、県の正答率を8%下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を基に、解決の方法を考えさせ、見通しをもった問題解決の学習を充実させる。 ・自らの実験データを表やグラフに表すなどして分かりやすく、考察を充実させる。 ・観察・実験の技能を高めるために、教科書を用いて、基本的な観察・実験技能(温度計の使い方、顕微鏡の使い方、ルーペの使い方、ピペットの使い方等)を繰り返し指導し、習得させる。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。
生命・地球	<p>○平均正答率は、市及び県の正答率を2～3%程度上回っている。</p> <p>○「ウサギの背中がまるく曲がる理由を推測することができる」の設問では、市及び県の正答率よりも10%程度上回っている。</p> <p>●「半月の動き方を理解している」の設問では、市及び県の正答率よりも10%程度下回っている。</p> <p>●「気温を正しく測ることができる」の設問では、市及び県の正答率より6%程度下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然現象についての知識・理解」を高めるために、自然現象について、模型やICT機器を活用して、視覚的に理解できるようにする。その上で、覚えるべき用語等を小テスト等を活用しながら、習得させる。 ・観察、実験の結果を見直し、再度、観察や実験を行ったり、解決方法の修正を行ったりする。 ・フォローアップワークシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「クラスの友だちとの間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」の設問では、肯定的な回答の割合は、県・市町村から20%近く上回っている。自分の考えをもった上で、友達と積極的に意見を交換できるような場を意図的に設定したためだと考えられる。今後も継続して指導していく。

○「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」の設問では、スマートフォンを持っていない児童が多く、持っている児童も長時間利用の問題はみられない。ノースマホデーや学級懇談会での啓発の効果があらわれているのではないかと考えられる。引き続き啓発をしていき、変容に対応しながら、利用する場合にはルールやマナーを守って利用できるように使用していく。

●「早ね、早起きを心がけている」の設問では、肯定的な回答割合は、県・市町村からわずかに下回っている。昨年度に比べ改善はみられるが、引き続き、家庭へ呼びかけるとともに、睡眠の大切さを保健や学級活動等で指導していく。

●「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている」の設問では、肯定的な回答割合は、県・市町村からわずかに下回っている。全校の取組として「ふわふわ言葉」を募集し掲示したり、教科学習・学級活動・学校生活全般を通して思いやりについて考えさせたりして指導していく。

宇都宮市立峰小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
目標やめあてに基づき、学んだことを振り返る活動の充実	・学習展開を工夫して、今行っている学習活動を意識させる。 ・授業を振り返るための視点を児童に与える。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定割合は、昨年度はいずれも市の平均より下回っていたが、本年度は、市の平均に比べ、4年は6.8%、5年は12.4%高い。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・年度初めに家庭学習の手引きを作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習を意識させる。	「家で学校の宿題をしている」の肯定割合は、4年生は100%、5年生は97.6%といずれも市や県の平均より高い。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強している」の肯定割合は、5年生は市、県の平均を7%以上上回っているが4年生はいずれも7%程度下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から国語の説明文の読み取りや作文の領域全般において県平均よりも5%以上低いものがあった。	読解力向上や作文力向上につながる指導の充実	朝の読書の時間などを通して読書活動の推進をしたり、授業において、説明文の要約をする学習や話を聞いて自分の考えをまとめる学習を多く取り入れたりして、読解力の向上に努める。 また、日常的な日記指導や行事ごとの作文指導などを通して、作文力の向上に努める。